

平成22年度 第3回がまごおり協働まちづくり会議 会議録

日 時 平成22年 7月29日(木)

10時00分～

場 所 蒲郡市役所 新館5階 庁議室

参加者：和泉会長、金子副会長、西川委員、水野委員、山本久代委員、山本喜是委員、小林憲三委員

(事務局) 竹内、酒井、小山、石川、森

1 開会

2 議題

1) 助成金について

(事務局)

～資料平成23年度はじめの一步部門にむけた取り組みについて(センター案)説明～

(副会長)

面接 行う必要がある。

募集時期 面接を行うと随時は難しい。今回は1回で募集が終わってしまい、前期・後期に分けたほうがいい。そうしないと秋に行う行事を1月に計画しないといけない。2期に分けることで通年を通した行事に対応できる。

予算の適正化 面接で修正しなければいけない。

審査員 どこかで引がかかってしまう人もいるので、市外の方を検討した方がいいのではないかと。

金額(上限) 10万円(100%補助)。

総額 現在50万+50万で、現在応募をしている方、新規の方にも助成できるのではないかと。種まきを重視。

活動支援 今後のまちづくり会議のテーマ

(会長)

募集時期、面接、予算の適正化についての話し合いが重要ではないかと。

(委員)

面接を行うことによって、いろいろなことが見えてくる。

(委員)

軸がぶれてはいけないので、面接は必要。

(委員)

面接は必要。

(委員)

必要。

(委員)

必要。審査員が審査しやすいように行う。

(会長)

面接を行えば予算適正化も上手くいくのではないかと。面接を行うなら、何回行うのか、面接を誰が行うのかの検討も必要。

(委員)

追跡調査を行ったらどうか。

審査員は以前に助成を受けていた団体の方や、まちづくり会議の前任者などはどうか。

(会長)

審査にも関係してくる。審査の側にボランティアをいれてはどうか。

募集時期はセンター案でいいのではないかと。

(委員)

募集時期は2回でいい。

(会長)

今回の経験をふまえて、募集期間は2回に分けることにする。そうすると年度内で複数回エントリーは？

(委員)

なるべく多くの団体に参加を促した方がいいので、同じ団体は年度1回までがいいのではないかと。

(事務局)

事業の実施期間はどうか？事務局としては、前期は3月31日まで後期募集も決定してから年度内の3月31日まででどうか。

(事務局)

募集時期は2回に分けるが、事業の期間は前期も後期も年度末がいいのでは。

(事務局)

現状は2月末までの事業期間だが、3月末までに延長できるのか。

(事務局)

まだ検討課題ではないかと。

(会長)

募集時期は前期2月、後期6月が適当ではないかと。

上限金額は？

(事務局)

総額350万円になると思う。はじめの一步部門を手厚くしたいと思うので、<はじめの一步部門>を100万円にしていただけると事務局としては有難い。

(委員)

予算の増額はどのような時に可能か？

(事務局)

使い道がきちんと決まること。基金もあるが平成22年度は500万計上されているが今後まちづくりに一般会計からでてくるという保証はない。基金を太く短く使うのか、細く長く使うかが問題になるが、会議で太く短く使う方向性になった。

(事務局)

行政からの市民団体への投資だと思う。

(副会長)

今後は民間寄付なども検討していかなければいけない。

(会長)

これまで助成を受けた団体の追跡調査を行っていったらどうか。一度会議の前でアンケートをとるなどした方がいいのではないかな。

では、上限を10万円にするのか5万円にするのか。

(委員)

今回は、<はじめの一步部門>が想像以上に多かった。どちらがいいのか難しい。

(委員)

はじめの一步部門は5万でも良いところもあったが、上限が10万なのでそれでいい。

(委員)

10万は必要。

(委員)

これから芽を出す方を優先させたい。

基金はその年度に必要な金額は基金にも戻すのが本来の形。

お金以外のサービスが必要。ハコモノ以外。

(会長)

協働まちづくり指針に記載されているので本来やらなければならない。

今までの議論で、<はじめの一步部門>は100万円、<ほとぼしる情熱支援部門>は250万円で、なるべく多くの団体に支援する。

減額について

(事務局)

一文「備品等の経費につきましては個別に内容を審査します。」を入れる。

(委員)

申請後、予算の変更もあり得るということか。

(事務局)

はい。

(会長)

要綱に盛り込む形にする。

(会長)

活動支援について

助成した団体への活動支援という意味か。

(事務局)

はい。

(会長)

事務局が中心となって、サポートを行っていく。

細かい内容については、今後の会議で話し合っていく。

2) 食育プロジェクトについて

(事務局)

モデル園が決定した。大規模園として中部保育園（130人）小規模園として大塚保育園（59人）。

3 その他

（事務局）

<はじめの一步部門>「手作り紙芝居の会」の活動で、西部小学校6年生を対象にオカリナに絵付けをして、紙芝居と一緒にオカリナを演奏する活動を行っていた。

（事務局）

愛知県のモリコロ基金の説明会で東三河では蒲郡市が行うことになった。

9月28日(火)19:00～ 勤労福祉会館 視聴覚室

5市には連絡して参加をしてもらう。

次回は 10/1(金) 14:00～ 庁議室